



311子ども甲状腺がん 損害賠償請求訴訟

第12回口頭弁論期日
原告ら第35準備書面・蟻塚意見書について

2024（令和6）年12月11日

原告ら訴訟代理人弁護士 杉浦 ひとみ



蟻塚意見書の信用性について

- ▶ 精神的被害の評価について、中立的で客観的な実証的根拠が求められることは当然。



- ▶ もっとも、精神的被害の評価は、外傷のように**可視的ではない**ため、「患者の問診を鵜呑みにして判断している」というような批判が、相手方からしばしばなされる。



- ▶ しかし、精神的被害に係る評価については、これを**客観化するための研究**が積み重ねられてきている。

今回の意見書は、**このような研究に基づくもの**であり、「問診を鵜呑みにしている」といった批判が当てはまるような低いレベルのものではない。



意見書を書くための力量

～精神的被害の診断者に必要な3要件～

- ① 精神医学あるいは臨床心理学全般において、基礎的な**臨床トレーニング**を受けていること。
- ② 心的外傷に起因する疾患（PTSD、解離性障害など）及びストレス関連疾患について、**少なくとも数例以上の治療経験**を有すること。
- ③ 心的外傷に起因する疾患及びストレス関連疾患に関して、疫学、診断、治療についての**最近の文献に通じている**こと。

の3点を満たしていることが必要であるとする。

司法精神医学に詳しい岩井圭司氏による（精神科医師、兵庫教育大学名誉教授）



診断者に必要な3要件を満たすこと

蟻塚医師の経歴等

- ▶ 精神科医として50年余を現場で稼働。
- ▶ 医師となって32年働いた青森県弘前市では、統合失調症を持つ人たちの治療と地域生活に関わってきた。
- ▶ 2004年に沖縄に移住し、**夜間に頻繁に覚醒**する高齢者の**不眠**と多数例、遭遇。
- ▶ 戦後60余年を経て発症した**晩年発症型PTSD**（late-onset PTSD）を、日本で初めて発見して発表した（2010年）。

沖縄で晩年発症型のPTSDを発見

子どものころに、戦場を、死体を踏んで逃げ回った体験

沖縄の高齢者にみられる、

- ▶ 「うつ病に見られる不眠」の症状。
- ▶ 昔の記憶のフラッシュバック。
- ▶ 「運転していて急にここがどこか分からなくなる」という解離性せん妄。

この「奇妙な不眠」は、「ナチスのホロコースト収容所からの生還者の40年後の睡眠障害」と酷似していた。

「沖縄戦において、彼らが子どものころに、戦場を、死体を踏んで逃げ回ったこと」を突き止めた。



診断者に必要な3要件を満たすこと

晩年発症型のPTSD

沖縄の高齢者の「奇妙な不眠」は、「ホロコーストからの生還者の40年後の睡眠障害」と酷似。





診断者に必要な3要件を満たすこと

①基礎的な臨床トレーニングを受けていること

- ▶ 精神科医として50年余を現場で稼働。

②少なくとも数例以上の治療経験を有すること

- ▶ 心的外傷に起因する疾患等に関し、**沖縄戦被害者、東日本大震災被災者、原発事故避難者**などを多数診療。⇒「数例」を遥かに凌駕する。

③最近の文献に通じていること

- ▶ 沖縄戦被害者にみられる晩年発症型のPTSDを発見・発表。⇒そのためには、**最新の文献に通じていることは明らか**。

蟻塚医師は、原告らの精神的被害について
鑑定的意見を示す者として適任である



診断方法の適正

～原告の自由な陳述を重視すること～

- ▶ 鑑定的な診断は、被害者の主観的な報告に頼り、被害者の主張を鵜呑みにするものであってはならない。



- ▶ しかし、被害者本人の**自由な陳述の中に事実の手がかり**がある。この自由な陳述を**批判的に吟味**しなければならないのであり、本人の陳述にじっくりと辛抱強く 耳を傾ける必要がある。



- ▶ 蟻塚氏は、必ず1～2度、各原告と**直接の面談診察**をし、かつ、各原告が作成した**詳細な陳述書**を踏まえて診断を行っている。
- ▶ 各原告が発した言葉を鵜呑みにすることなく、ときには**発言内容とは逆にみえる診断**を行っている場合があることも分かる。



診断基準の適正

～一般的な診断基準を用いること～

診断病名をつけるにあたっては、一般的な診断基準を用いることが必要。

世界中で汎用されている標準的な診断基準

A 精神障害の診断統計マニュアル **DSM**

(Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders)

アメリカ精神医学会が作成する精神障害に関する国際的な診断基準の1つ。1952年に第1版が出版。その後改訂を重ね、現在第5版。臨床、研究、教育の幅広い分野で用いられている。

B 国際疾病分類 **ICD**

(International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems)

「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」で、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関（WHO）が作成した分類である。

▶ **これらの基準を用いて診断をしている。**

診断基準の内容

PTSDと診断するためには、A及びBを満たす必要がある。

A 「心的外傷体験」(出来事基準)

B 一定の「症状」の発生

- ① 侵入(再体験) : 思い出したくない辛い記憶が時折蘇る。悪夢に出る。
- ② 過覚醒 : 神経が張り詰めた状態にあり不眠になる。
- ③ 回避 : 必要以上にその出来事を考えないようにする。

← 要件Bについては個別に検討されている。



A 心的外傷体験（出来事基準）

がん罹患は、PDSDの心的外傷体験にあたるか

- ▶ 心的外傷体験は、従来、一般に、「実際にまたは危うく死ぬまたは重症を負うような出来事を体験すること」と捉えられていた。
- ▶ たしかに、PTSDの研究が進んだのは、ベトナム帰還兵の精神症状が特異であったことに端を発することから、当初は「実際にまたは危うく死ぬまたは重症を負うような出来事」の遭遇が要件とされていた。
- ▶ しかし、その後PTSD症状が発生する心的外傷体験の内容は、**それに限らないこと**が、多くの症例の中で明らかにされてきた。**DSM-IV**（1994）において、「**がんなど命にかかわるほどの経験**」もこの心的外傷体験に当たるとされるに至っている。
- ▶ したがって、本件でもPTSDの**A要件**（出来事基準）を**満たしている**と診断。



A 心的外傷体験（出来事基準）

がん罹患は、PDSDの心的外傷体験にあたるか

- ▶ がん罹患ということは、「いつまで生きられるかわからない」「いつ死ぬかわからない」という大きな精神的ストレスを与える。医学的には、抑うつ、不眠、せん妄などの精神症状だけでなく、相互に影響する器質的問題と**精神的問題へのケア**が必要とされる。
- ▶ がんの告知が一般的になった1970年代頃より発展してきた比較的新しい分野として、「**精神腫瘍科**」が国立がん研究センターに創設された。また、サイコオンコロジー（Psycho-Oncology）～「心」の研究を行う精神医学・心理学（サイコロジー＝Psychology）と「がん」の研究をする腫瘍学（オンコロジー＝Oncology）を組み合わせた造語～が、「**精神腫瘍学**」と訳され、1980年代に**がん医療における心を専門とする新しい学問**として確立された。
- ▶ がんの診断がもたらす**精神的ストレスの高さ**が認知されてきた。



精神的被害の大きさ①

～AYA（アヤ）世代における罹患～

AYA世代とは Adolescent & Young Adult

- ▶ 思春期から若年成人（15～39才）が当てはまる。
- ▶ 若者ががんに罹患することによる**ダメージの大きさ**は、一般的にも想定できる。

AYA世代のがんには、特殊な配慮が必要

- ▶ 近時、国も、「AYA世代」のがんについては、**特殊な配慮を払う必要**があるものとして取り組んでいる。
- ▶ この年代は、中学生から社会人、子育て世代とライフステージが大きく変化し、社会におけるアイデンティティを確立するための時期。回避症状からくる「浅い対人関係」が、結婚や家庭に対しても**否定的な影響**を与える。



精神的被害の大きさ②

～妊孕性（にんようせい）について～

- ▶ AYA世代のがんがもたらす象徴的な問題として、がん治療に伴う**妊孕性**（妊娠するための力）への影響が指摘されている。
- ▶ 厚労省の調査でも、治療中のAYA世代がん患者の**35.3%**、サイバー（がん経験者）の**45.5%**が、不妊治療や生殖機能に関して悩んでいると回答。
- ▶ これに対しては、温存療法などがあるが、原告らは、これでは救われない。がん治療に伴って妊孕性に影響が生じるのではなく、原発事故による**被ばく→がん罹患そのものによって、妊孕性が害されている**ため。
- ▶ 国ががん手術による妊孕性を問題視するのであれば、原告らの妊孕性への不安は、**比べものにならない根本的な不安、あるいは絶望**だと言わなければならない。



蟻塚意見書の提出（まとめ）

- ▶ これまで、2人の原告について、蟻塚医師の意見書を提出。いずれも、原告らが、**甲状腺がんによってPTSDに罹患していることを認定**。蟻塚意見書は、その経歴に照らしても、**十分に信用できる**。
- ▶ 「がん」は、PTSDの要件である**心的外傷体験（出来事基準）に該当する**。DSM-IVにおいても、認められている。
- ▶ 「がん」を心的外傷体験とするPTSDにおいて、被害者がAYA世代に当たる場合には、その被害は**人生の重要な部分に関わるものとなり、被害の実態はより大きなものとなる**ことが明らかになっている。